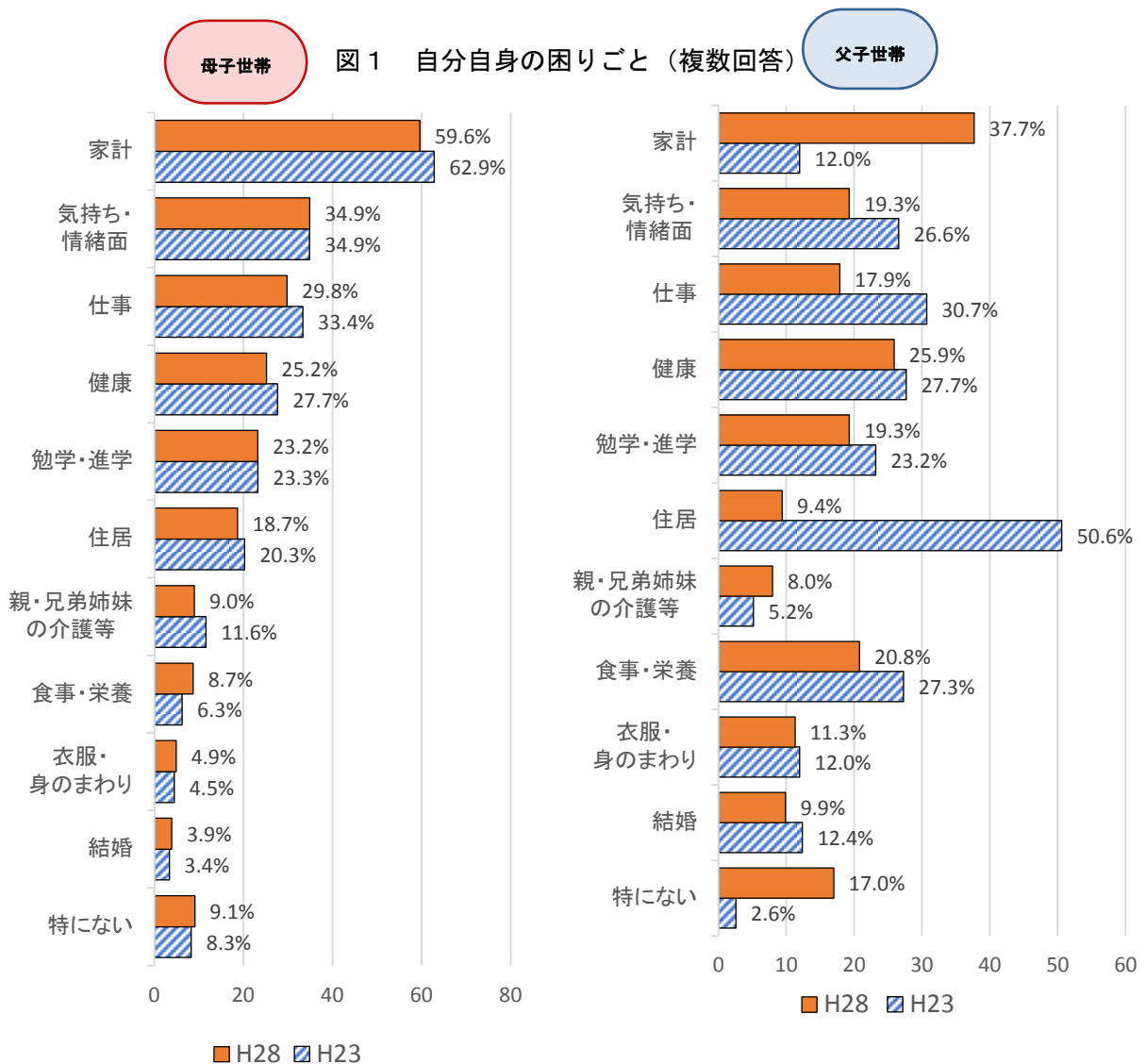


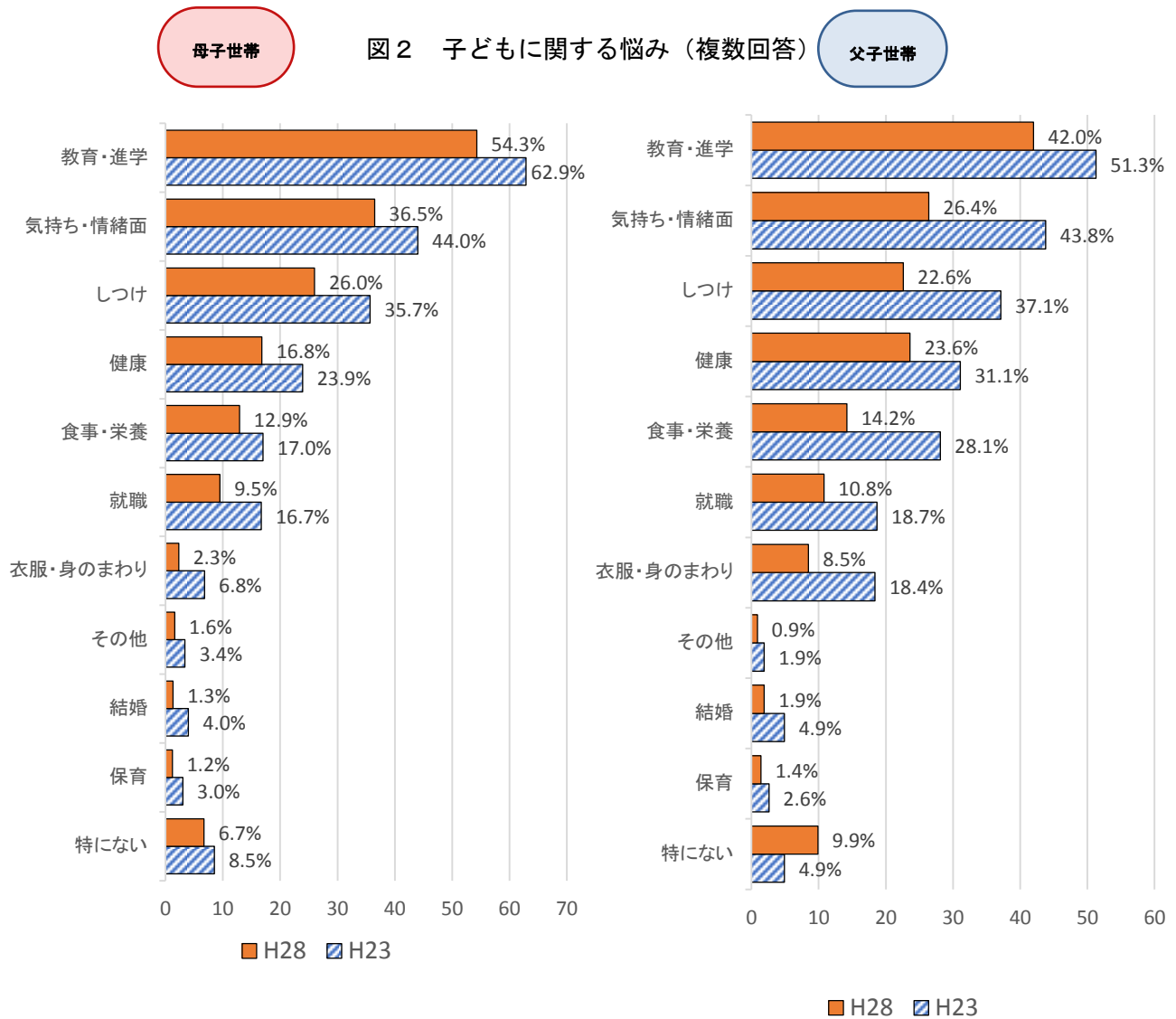
Ⅱ 調査結果の概要

1. 親自身と子に関する悩みについて

調査対象に自分自身の困りごとについて質問（複数回答可）したところ、「家計」が母子・父子ともに最も多く（母子 59.6%、父子 37.7%）、その次に「気持ち・情緒面」（母子 34.9%、父子 19.3%）、「健康」（母子 25.2%、父子 25.9%）が母子・父子ともに多い。母子では仕事（29.8%）、父子では食事・栄養（20.8%）の悩みも多く見られる。（図1 参照）



次に、子どもに関する悩みについて質問（複数回答可）したところ、「教育・進学」が母子・父子ともに最も多く（母子 54.3%、父子 42.0%）、次に「気持ち・情緒面」（母子 36.5%、父子 26.4%）が多い。その他に、「しつけ」（母子 26.0%、父子 22.6%）、「健康」（母子 16.8%、父子 23.6%）の悩みも多く見られる。（図2参照）



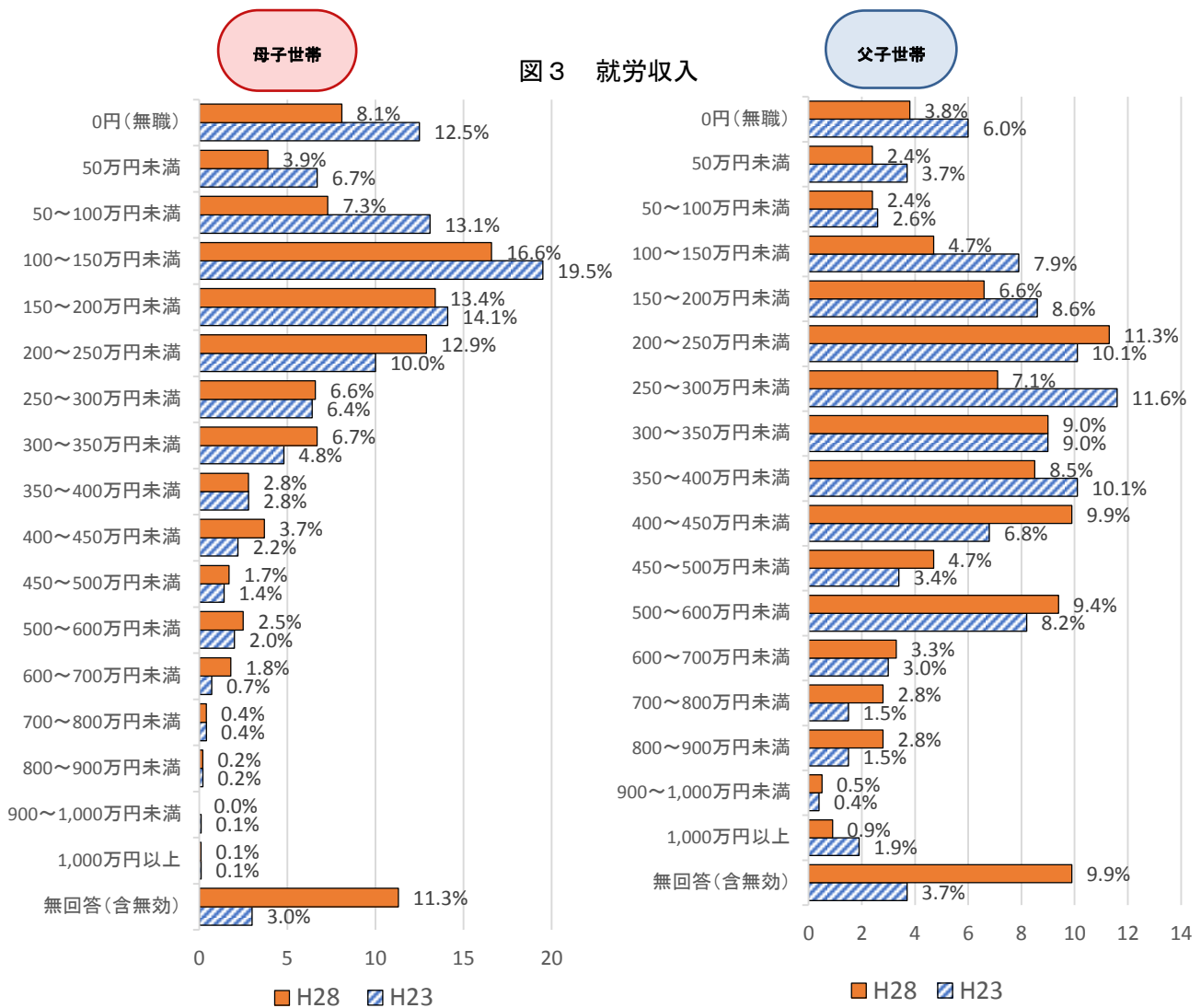
2. 家計、仕事について

父子に比べ、特に母子は経済的に逼迫しており、自分自身に関する困りごとで仕事を挙げる人が多かった。(図1参照)

また、調査の前年(平成27年)1年間の自分自身の就労収入を聞いたところ、母子で一番多いのは「100万以上150万未満」(16.6%)、父子は「200万以上250万未満」(11.3%)であった。(図3参照)就労収入平均は母子が209万円、父子は358.2万円であり、平成23年度調査に比べ大きく増加した。(前回母子169.4万円増39.6万円増、前回父子317.2万円増41万円増)

しかし、平成28年国民生活基礎調査の児童のいる世帯の平成27年度総所得が707.8万円であるが、ひとり親世帯の就労以外の収入平均(母子50.7万円、父子45.1万円)を加えた総収入平均は母子が259.7万円、父子は403.3万円であり、2人親世帯に比べ少ないと言える。

また、母子と父子の平均収入の差が約150万円程度あることから、父子に比べ、特に母子は収入が少ないことが分かる。



3. 親と子の健康について

自分自身の困りごとについて、「健康」と答えた母子・父子は25%以上で(母子 25.2%、父子 25.9%)、ひとり親家庭の4人に1人は自身の健康に何らかの不安を抱えていることが分かる(図1参照)。また子に対する悩みでも、「健康」と答えた割合は、母子で16.8%、父子では23.6%と両者とも多い(図2参照)。

親及び子の健康状態について質問すると、平成23年度調査に比べ健康状態は改善しているものの、自身が健康でない(どちらかといえば健康でない回答も含む)と答える母子・父子は2割を超える(母子22.5%、父子20.7%)。子が健康でない割合は母子が5.7%、父子は3.3%である。

図4 親の健康状態

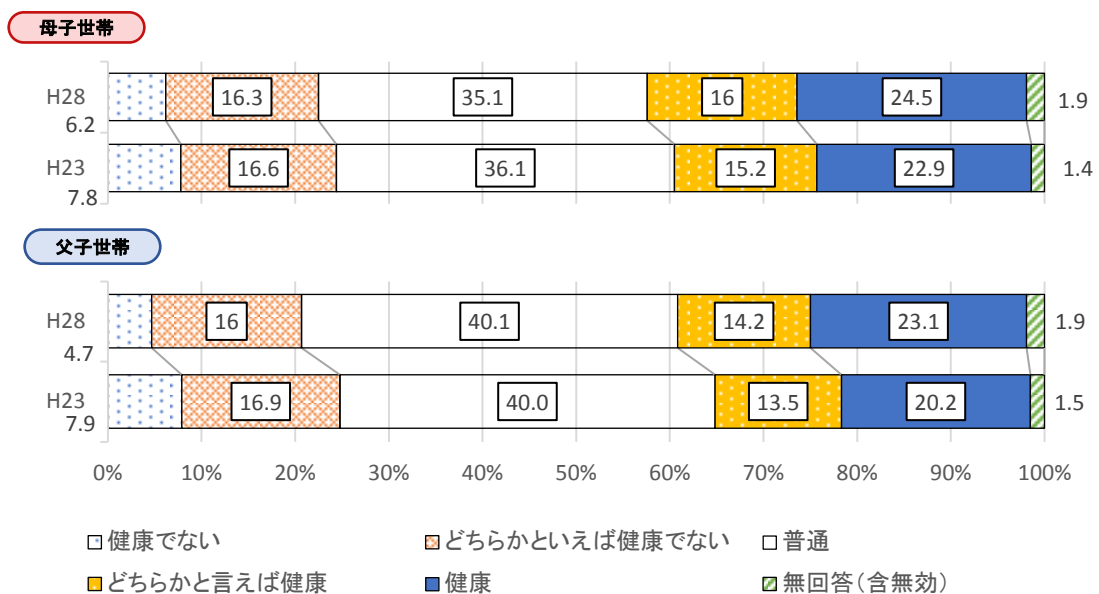
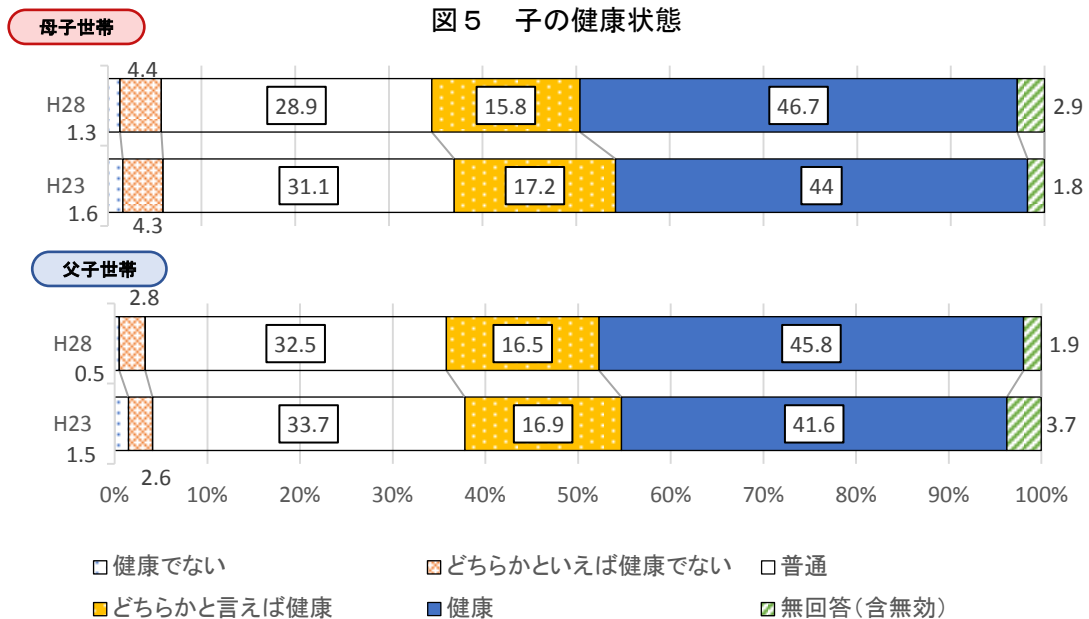


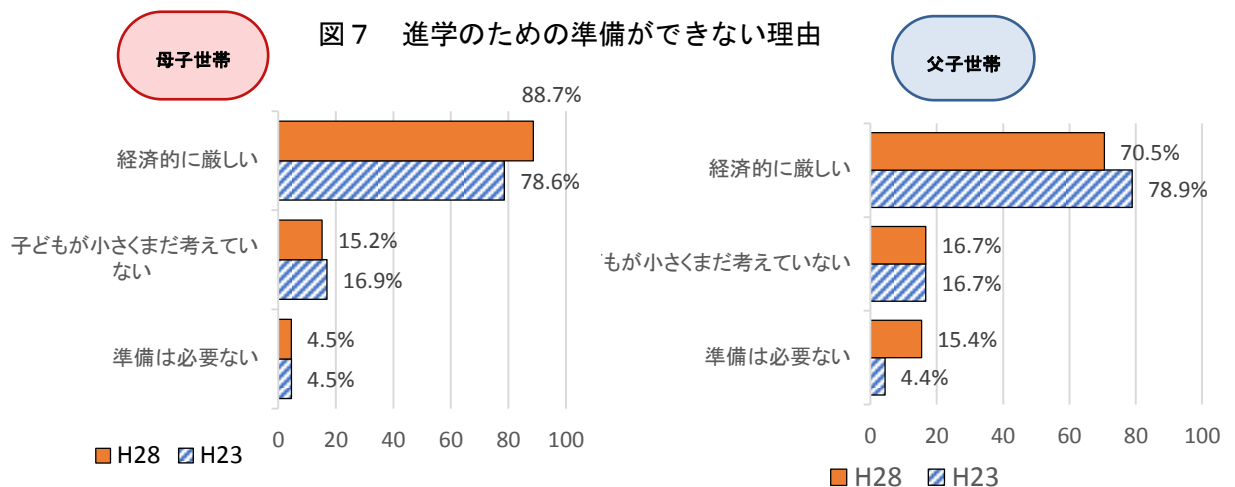
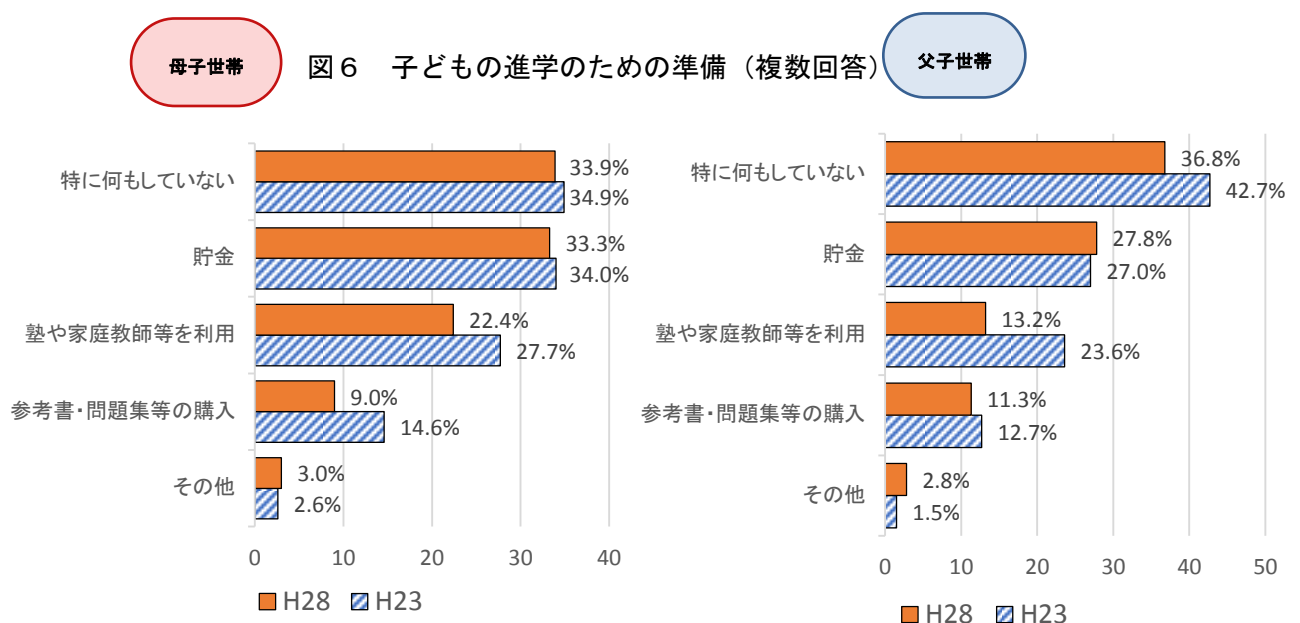
図5 子の健康状態



4. 教育・進学について

子どもに関する悩みについて質問したところ、「教育・進学」に関する悩みが一番多く、母子の半数(54.3%)、父子の4割以上(42.0%)が子の教育や進学に不安を抱えていることが分かる。(図2参照)

子どもの進学のための準備について質問したところ、「何もしていない」と回答した割合が3割以上と多く(母子33.9%、父子36.8%)、その理由としては「経済的に厳しいため」という回答が大半を占めた(母子88.7%、父子70.5%)。(図6、7参照) 経済的に厳しく、進学準備ができないひとり親家庭が多い一方で、進学のための準備として次に多かったのが貯金で、特に母子は父子に比べ貯金している割合が高かった。(母子33.3%、父子27.8%)



5. 子どもの食事環境について

子どもに関する悩みで「気持ち・情緒面」(母子 36.5%、父子 26.4%)、「しつけ」(母子 26.0%、父子 22.6%)を挙げている家庭が多いが、その一因として、子どもとのコミュニケーションの場として重要な食事時間をともに過ごすことのできない孤食の実態がある。

今回調査で新たな質問として一緒に食事する主な相手について聞いたところ、一人及び兄弟姉妹と答えた割合がほぼ2割を超えることから(母子:朝食 30.0%、夕食 20.3%、父子:朝食 22.8%、夕食 13.8%)、子どもの約5人に1人は子どもだけで食事していることが分かる。そのうち子ども一人で食事することが多いと答えた割合は母子の朝食 14.8%、夕食 4.5%、父子の朝食 12.2%、夕食 5.6%であり、そのうち末子が小中学生の家庭で、夕食を一人で食べている件数は、母子 68 件(2.4%)父子 7 件(3.3%)、母子・父子計で 75 件(2.5%)となっており、小中学生の約40人に1人が夕食を一人で摂っている孤食の実態が明らかになった。

また、母子に比べ父子は祖父母と食事をとる割合が高く(母子:夕食 19.1%、父子:夕食 31.8%)、その理由としては、父子は祖父母と同居している割合(母子 34.9%、父子 47.2%)が高いからと考えられる。

